



マンガ手作りの宇宙

横尾武夫 編, 坂元 誠 画, 148頁, 1500円, 裳華房

実験書

お薦め度
☆☆☆☆

ここ数年あまり理科教育関係の出版では、いわゆる「実験書」が大ブームになっている。70万部をこえる大ベストセラーの出現やシリーズものの刊行が続いたりと活気を帯びている。本書はそのような流れの中に位置付けることが出来るものであるが、ブームに乗って刊行されたものとは大きく異なる様相を呈している。それは大学での教員養成から小学校の授業に至る著者たちの豊富で多彩な実践に裏打ちされたものであるということである。さらに特筆すべきは以下の点についてである。

1) 天文分野だけに絞られている, 2) 単なる実験, 実習のやり方だけにとどまらずストーリーがある, 3) マンガで書かれており指導者だけでなく, 子どもたちが読んで楽しめる工夫がある, 4) コラムが充実している

まず, 1) の特徴についてであるが, これまでの「実験書」で天文分野だけのものというのほとんど存在しなかったのではないだろうか。これは画期的なことで天文コミュニティーとしては歓迎すべきことだろう。そして, 本書が従来のものともっとも顕著に異なっているところは 2), 3) である。マンガでのストーリー展開が行われており, マンガを読んでいくうちについつい引き込まれて, 自分自身で工作し, 実験してみたくなるのである。また, 全部で10のお話からできているが, ひとつのお話がちょうどいい長さになっており, 読者が興味をそそられたあたりで工作に進むという絶妙なタイミングになっている。レイアウトも工夫されており, 工作の仕方, 実験の仕方が見開きでうまくまとめられて見やすいつくりになっている。さらに巻末にはレシピという形で従来の「実験書」のように目的, 準備物, 作り方が箇条書きにされており, 拡大コピ

ーしてすぐに使える展開図などもつけられている。まさに至れり尽せりという感だ。さらに4)のコラムについては, 天文学の基本的な事柄から, 虹, 宮沢賢治といったところまで幅広い内容が盛り込まれており, 著者たちの造詣の深さがうかがわれる。また, このような関連付けが読者や子どもたちの良い興味付けにもつながるであろう。

ただ, 難を上げるとどうもマンガには元となるモデルがあるようで, この事情を知らないと楽しめないのではないかということである。(このあたりを勘ぐりながら読むのが良いという方もおられるだろうが。) また, 他の「実験書」に比べると, 値段の割にはテーマが少ないように思える。さらにもっと実際の教育カリキュラムに則したテーマがあると, 現場としてはすぐに使えて良いのではないかと思う。

近年, このような「実験書」がブームになった理由として学校現場で実験や観察が軽視されてきたということが上げられるのではないかと思う。このような形で本当の理科教育が成り立つのだろうか。現場には今大いなる反省が求められている。このことは初等, 中等教育に限った話ではないであろう。高等教育や社会教育にもあてはまるのではないだろうか。黒板での式の展開だけ, 望遠鏡での星の観望だけで教育を行っていると考えるのは独り善がりではないか。本書はこのような状況に対する問題提起とその解答を暗に示してくれているように思える。

最後に本書で登場してくるややマッドな天文学者, 池田真澄はこう言って締めくくっている。「次は自分で工夫してみんか。それが既存のものやろうと, 自分の中では最先端や, おもしろいと思わへんか。」一体これは誰に対する問いかけなんだろうか?

有本淳一 (塔南高等学校)